

令和8年度「全国学力・学習状況調査」の結果と今後の方策（篠島小6年生）

＜学力調査について＞ ○…よかった点、 △…課題のある点

国 語

○設問別で見ると、「漢字を文の中で正しく使う」問題において、全国平均と比べてよくできていました。これは、「漢字の書き取り」について、日常的な反復練習などの取組の成果が表れたものと考えられます。内容別・観点別では、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方」に関する技能が向上しており、基礎的な書字能力の定着が進んできていることがうかがえます。

△設問別で見ると、「考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係を理解する」問題や「資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫する」問題において、正答率が全国平均と比べて特に低い結果となりました。内容別・観点別では、「思考・判断・表現」の「書くこと」「読むこと」に課題が見られました。思考を深めながら読み取る力や、情報を的確に整理・理解する力、考えたことを表現する力の育成が求められています。

今後は、説明文や資料など、さまざまな情報を読み取る学習を通して、言葉に注目して、必要な情報を見つけ、理解する力を育てていきます。また、国語だけでなく、他の教科でも文章を読み取る力が必要となるため、全体的な読解力の向上を目指して指導を進めてまいります。

算 数

○設問別で見ると、「数を四捨五入して、概数で表す」「立方体の体積の計算」「整数と小数の減法の計算」に関する問題において、全国平均を上回る正答率を示しました。内容別・観点別では、「知識・技能」の「数と計算」「図形」に関する技能が向上しており、基礎的な計算力や図形を認識する力が定着してきていることがうかがえます。

△設問別で見ると、「示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述する」や「示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述する」問題において、全国平均を下回る正答率となりました。内容別・観点別では、「思考・判断・表現」の「データの活用」に課題が見られました。数値を正しく読み取り、思考を深めながら情報を整理・理解する力の育成が求められています。

今後は、思考力を要する問題にも多く取り組むようにし、グラフや表から正しく情報を読み取る力を育てていきます。また、考える過程を大切にした授業を心がけ、視覚的に理解しやすい教材も活用しながら、思考力の向上を目指して指導を進めてまいります。

生活習慣や学習環境に関する調査について

令和8年度の全国学力・学習状況調査における児童アンケートの結果から、児童の学校生活や学習への意識について、前向きな面と、今後、ご家庭と連携して取り組んでいきたい課題の両方が見えてきました。

○「友達関係に満足している」「困り事や不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」と答えた児童が多く、良好な関係のもと、安心して学校生活を送ることができている児童が多いという結果が得られました。また、「ICT機器を使ってプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができる」「発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することができる」と答えた児童が多く、ICT機器の活用への自信や発表に対する前向きな気持ちがうかがえました。これらは、日々の学習活動や、協働的な学びを通して育まれている力の表れと考えられます。

△「毎日同じ時間に起きている」「国語の勉強が好き」「算数の勉強が好き」「読書が好き」と答えた児童が少なく、生活習慣や学習への関心の面で不安が見られました。特に、規則正しい生活リズムは、集中力や学習意欲にも大きく影響します。また、読書や国語への苦手意識があることも、他教科での学びにもつながる「読む力」の伸びに影響を与える可能性があります。

ご家庭でも、お子さんの毎日の生活リズムや学習習慣、読書の時間の確保などについて、今一度見直していただくとともに、お子さんの気持ちに寄り添いながら声を掛けていただけるとありがたいです。今後も、学校とご家庭とで連携しながら、子どもたちが安心して過ごし、自分の可能性を広げていけるよう支援してまいります。